

第10期第2回神奈川県男女共同参画審議会での委員意見について

理念

項目	委員	ご意見
ジェンダー平等	白河委員	日本は国際的に非常に遅れをとっていること、SDGsのゴールVがジェンダー平等であることが知られていますが、SDGsの前文では、ジェンダー平等というものがすべてのSDGsに関わる重要な施策であり、すべての政策にジェンダー視点を入れるということ、ジェンダー主流化について記載があること、第5次男女共同参画基本計画ではこの観点が非常に強く打ち出されている。 国の男女共同参画基本計画がかなり進化しているので、県もそれに合わせないと、今までの規定路線をそのまま続けても全く追いつかなくなってしまう。
	井上委員	ジェンダー平等ということが今もの凄く表面に浮上し、ようやくしっかり議論できるようになってきて、プランのタイトルがこれでいいのか、プラン全体としての建付けが男女共同参画という概念のままなのか、表紙の名前はともあれ、ジェンダー平等という形で少し中身ないしは理念についてもきちんと議論していく必要があるのではないか。
	橋本委員	ジェンダーという言葉の定義を踏まえ、男女だけではなく、多様な性というものを認め合わなければいけないのではないか。基本目標の「ともに生きる社会、ともに参画する社会へ」は、男女だけではなく性的マイノリティの方々も含まれているのではないか。したがって、男女共同参画だけを強調し過ぎてしまうと埋もれてしまう方々がいるのではないかという懸念がある。

重点目標 1 あらゆる分野における男女共同参画

施策の基本方向	主要施策	委員	ご意見
1 政策・方針決定過程における女性の参画	1 政治・行政分野における政策・方針決定過程への女性の参画	野村委員	地域リーダーのところをもう少し厚くしてもいいのではないか。政治分野の女性のリーダーを増やすためには、自治体での活動やNPOといった、地域のいろいろな活動を経て政治家にという一つの大きなキャリア経路もあるのではないか。
		井上委員	地域の話について、所属するかながわ女性会議は地域のNPOなので、ここは力を入れて皆さんと意見交換していきたい。地域のリーダーの養成もとても重要であり、例えば防災や地域福祉といった具体的なテーマの中で地域づくりをしながら、そこで地域を支えている女性がリーダーシップを取っていくという形で事業を積極的に進めていただきたい。これまでとは少し違う発想で地域づくりに取り組んでいくようなプランを目指してもいいのではないか。
		岩田会長	政治分野について、現在のプランは何も言っていないに等しい。国の第5次男女共同参画基本計画、政治分野における男女共同参画推進の法律の成立を踏まえ、政治分野について、ここは真正面から取り上げていただきたい。
2 あらゆる分野における女性の活躍促進	2 女性の参画が進んでいない分野への女性の参画支援	岩田会長	グリーン、環境問題について、国の第5次男女共同参画基本計画でも少し弱いと感じる。地球環境問題について、ジェンダー平等・男女共同参画という観点から見たら、どのような課題があるか、そこで男女が、特に女性がどのような役割を担えるかという問題がある。
	4 防災分野への女性の参画支援	岩田会長	防災関係も国の政策が進んだことを受け、もっと力を入れていただきたい。
3 家庭・地域活動への男性の参画		野村委員	④「6歳未満の子どもを持つ夫の育児・家事関連時間」について、夫の目標値を掲げるのも大事ですが、これは男女比較が必要。男女に差があるということが問題なので、たとえ男性の時間があまり増えていなくても女性の家事時間が大きく減っていれば、男女差はそれ程広がっていないことになる。育児・家事関連時間については男女を比較して見た方がいいのではないか。

重点目標2 職業生活の充実とワーク・ライフ・バランスの実現

施策の基本方向	主要施策	委員	ご意見
1 職業生活における活躍支援	1 女性の就業支援	岩田 会長	デジタル化の推進が、男女共同参画やジェンダー平等という観点から見るとどうい影響があるのか。利点を活かしていないといけない。例えば、在宅勤務等で良い影響があるのであれば、それは伸ばせばいいが、何か課題があるとしたらそれは手を打たないといけない。 ※施策の基本方向2働き方改革の推進と新たなワークスタイルの創造—主要施策1長時間労働の是正と多様な働き方の促進にも関連
		井上 委員	M字カーブについて、①「就業状況（神奈川県）」で、正規と非正規で数字が非常に違うが、内閣府のSociety5.0の議論においてもL字カーブという新しい言葉が発言されている。非正規の人と正規の人で行動様式がかなり違ってきていることもはっきりしているので、従来のM字カーブに比べて、正規・非正規という待遇も含めた形で、労働力率だけではない形で議論していく必要があるのではないか。
2 働き方改革の推進と新たなワークスタイルの創造	1 長時間労働の是正と多様な働き方の促進	野村 委員	コロナでテレワークが浸透したことによって、例えば週2回出勤などの新しい働き方の可能性も出てきているといったことを、現状把握と提言のようなもので追加できないか。

基本目標3 男女共同参画の面から見た健やかで安心なくらし

施策の基本方向	主要施策	委員	ご意見
1 あらゆる暴力の根絶	1 配偶者等からの暴力防止・ 2 配偶者等からの暴力被害者への支援	井上委員	⑦「夫婦間における次のような行為を暴力と認識する人の割合」については、暴力概念についての更新など、他の自治体と比較しても非常に苦勞していろいろな調査をしている。県民の意識調査は重要だが、それと同時に、このプランは行政計画という面も大きいので、行政の中で実態としてどういうことを実施しているのか、もう少し調査のポイントが広がっても良いのではないかと。DV防止法の改正の動きも見ながら、例えば、職員の研修などの数字が上がってくるといいのではないかと。
2 困難を抱えた女性等に対する支援	1 ひとり親家庭に対する支援	野村委員	⑧「母子家庭等就業・自立支援センター事業による就業者数」について、実績80人で目標80人だが、横ばいというのは残念な目標値で、コロナの影響もあり、目標を上げた方がいいのではないかと。
	6 性的マイノリティ（LGBT等）に対する支援	橋本委員	現行プランでも性的マイノリティについては記載があるが、拡充したい。
		松田委員	パートナーシップ制度について、県内33市町村のうち、導入市町は約14であり、半分にも満たないことをアピールしていきたい。
3 生涯を通じた健やかで生き生きとしたくらしの支援		井上委員	第5次男女共同参画基本計画の第7分野「生涯を通じた健康支援」と比較して、県の施策の幅が少し狭いのではないかと。例えば、女性の健康であっても生涯にわたることであり、男性も、LGBTQなど性的マイノリティの人達に対するアプローチというのもジェンダー平等の非常に重要な点ではないかと。
	1 女性の健康に対する支援	野村委員	⑩「20歳代女性のやせの割合の減少」について、もちろんこれは非常に重要な目標値だが、今、女性の月経に関してかなり議論が盛り上がっている。国の男女共同参画専門調査会でも、働く女性の月経のトラブルが仕事に支障をきたしているという問題意識が非常に高まっている。そういった割合のデータを把握し公開することで問題提起してはどうか。

施策の基本方向	主要施策	委員	ご意見
3 生涯を通じた健康やかで生き生きとした暮らしの支援	1 女性の健康に対する支援	濱田委員	⑩「20歳代の女性のやせの割合の減少」も重要な部分だが、月経については少子化対策に繋がってくる。実際に結婚・妊娠・出産とライフステージが上がっていかないと、月経に関して自分が正常かなどを気にすることがなく、治療などが手遅れになるということ、同世代を見ていると感じるので、それを可視化していく必要がある。やせの割合の減少などをデータ化していくことは重要だが、月経など女性の身体に関する調査を今後していないと、少子化対策といった部分は変わらないし、同世代を見ているにもかかわらず意識が全く無いと思うので、早急に進めた方がいいのではないか。
3 生涯を通じた健康やかで生き生きとした暮らしの支援	1 女性の健康に対する支援・ 2 男性の健康に対する支援	井上委員	自殺について、自殺は様々な要因が関わってくるので、どれが原因か特定することは難しいが、はっきりと男女差が出たということで、かながわ自殺対策会議では、早く分野を超えた形で対策を行うべきという議論をした。これは比較的ショートスパンでやらなければいけないことなので、プランの改定にうまく絡むかどうかは別として、男女共同参画という施策の特徴の一つである、様々な分野に横軸になることの例であり、自殺の問題を分野横断的な形にする観点からクローズアップして議論していきたい。

重点目標 4 男女共同参画社会の実現に向けた意識改革と基盤整備

施策の基本方向	主要施策	委員	ご意見
1 固定的性別役割分担意識解消のための意識改革	1 男女共同参画社会の実現に向けた意識の醸成	濱田委員	⑪「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という設問は、男女別々で出すことが重要。男女差で相当違いが出てくるのではないかと。神奈川県は制度面などハードの部分はかなり取り組まれているが、今後はその先をやっているかなければならない。制度が整っていてもソフトの部分、意識的な部分が変わらないと何も変わらないので、その点を可視化していく必要性はある。

重点目標5 推進体制の整備・強化

施策の基本方向	主要施策	委員	ご意見
2 男女別統計の促進		白河委員	第5次男女共同参画基本計画に係る施策では、ジェンダー統計を非常に沢山打ち出そうとしている。都道府県別の一覧で全てベストからワーストまで並べられていて最下位もはっきりわかるようになっており、そのデータが非常に充実している。まずは神奈川県データをしっかり把握するところから始めるのがとても重要。
3 進行管理		岩田委員	<p>重点目標について⑰まで目標値を掲げているが、到達の難易度が違うので、三つに区分して考えるとよいと思う。一つ目は、行政の取組で達成できるもの、二つ目は、人々の意識を変えることを目的としているもので、広報活動や学校教育、メディアの力を借りるなどといった区分である。三つ目は、大前提として意識変革をしなければならないが、意識が変わっただけでは駄目で、生活・行動それ自体が変わらないといけないものである。難易度が三つあることを念頭に置いて評価すべきである。</p> <p>特に、行政が努力すれば達成できる目標が17のうち7つあり、これは達成していなければ、行政の努力が足りないということ。あと1年で、関係部局に必ず達成するよう働きかけいただき、また仮に達成できなくても、この1年で大きく前進したという姿を見せていただきたい。</p>

策定プロセス

項目	委員	ご意見
意見反映	岩田会長	パブリックコメントに限らず、若い方や男性の声を反映していただきたい。若い方たちの声をどうやって拾うか、例えば大学に出向き話を聞く機会を作るとか、また意識的に男性の意見をどう聞くかということについても考えてほしい。従来このプランに十分反映しきれていない声をどうやって拾うかということも工夫していきたい。